

スウェーデンの看護教育
—イェーテボリ大学研修を通して—

齋藤美和・森木妙子・高橋永子

高知大学医学部看護学科 〒783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮

Swedish nursing education
—Through the Göteborg University training—

Miwa SAITO・Taeko MORIKI・Eiko TAKAHASHI

Nursing Course, Kochi Medical School, Kochi University
Kohasu, Oko-cho, Nankoku-shi, Kochi (〒783-8505), Japan

要約

スウェーデンでは、大学で看護教育が行われ、卒業時には、即戦力になる看護実践能力を身につけている。それは、日本の看護教育と比較検討すると、看護に対する動機付け、実習の指導体制、目的・目標の絞り込みができていないかと考察される。

Abstract

In Sweden, nursing education is performed at a university. When she graduated, a Swedish student can carry out a nursing care. In comparison with Japanese nursing education, there is a motivation to nursing, the guidance system of training, a purpose / an aim becomes clear.

キーワード : スウェーデン、イェーテボリ大学、看護教育、大学教育

Key Words : Sweden, Göteborg University, Nursing education, University education

I. はじめに

スウェーデンは、面積約 45 万 km² (日本の約 1.2 倍)、人口約 908 万人、首都はストックホルムでスウェーデン王国の名が示すように立憲君主制の国である。(2006 年 10 月現在 外務省ホームページより) 言語はスウェーデン語だが、小学生から英語教育が行われているので、ほとんどの人が日常会話程度の英語は問題なく使える。スウェーデンは、ゆりかごから墓場までと言われる程の福祉国家であり、それを支える福祉や看護の教育がどのように行われているのか興味深いところである。2006 年 8 月、スウェーデン第 2 の都市イェーテボリ市にあるイェーテボリ大学での研修の機会を得た。この大学は、学生数 5 万人以上の大きな総合大学で、医学系のコースも多数あり人気がある。スウェーデンの看護教育が、どのような背景の元にどう行われているのか、日本の現状と合わせて考察した

のでここに報告する。

II. イェーテボリ大学 (Göteborg University) での研修を通して

1. スウェーデンの人々の生活

スウェーデンの気温は、訪問した8月中旬は20℃前後で、長袖のジャケットを着てちょうどであった。朝とても良く晴れていても突然土砂降りの雨が降るのには驚いた。しかし、洪水や地震などの天災はほとんどなく、戦災にもあっていないので、古い町並みが残っている。冬は、雪はそう多くないもののどんよりと薄暗く寒い毎日が半年近く続き、気持ちが落ち込む人が多くなるそうである。

スウェーデンでは、6~7才から9年間の義務教育が始まる。その後、3年制の高等学校へ進学し、職業訓練のコースや大学など高等教育への進学のためのコースに別れて勉強をする。大学への進学は、高等学校での成績でほぼ決まるが、成人学校といわれる社会人のための教育制度が充実しており、また、働いてから大学に入る道もあり、働きながらでも学びたいときにいつでも学べるようなシステムになっている。

教育費は無料であり、16、7才から親元を離れ自立をする事が多い。学生であっても奨学金を得てアパートを借りて生活をする。しかし決して家族と疎遠になるわけではなく、先祖代々伝わるものを大切にし、家であれ施設であれ、両親や祖父母を訪問する。どの家庭も台所の作りやバス、トイレの構造、電気のスイッチなどほぼ同じ規格で、同じ様な生活をしており、他人と比較してどうこうといったストレスが少ない。また、税金が多いかわりに社会保障が整っているので、生きていく上での心配も少ないと考えられる。規格外のものを求めようとすると非常に高価で贅沢なものになるが、同じ様な生活様式の中で、バカンスを楽しんだり家族で散歩やジョギングをしたり、カーテンやクッションなどを手作りし、自分なりの生活を楽しんでいる。

若い頃から1人で生活する心構えと姿勢ができているので、親側も自分の状態に合った家や施設に移り住み福祉の手を借りて最期まで子供に頼ることなく自立して生きている。それが、当然の社会で、寝たきりの父母の見舞いに来ても、手を貸すという意識は、親にも子にも医療者にもないようである。

2. 看護師の仕事

看護師の役割は、フィジカルアセスメントや創傷処置、薬の管理、注射の実施、輸血、時には気管内挿管など医学的な処置を含め、疾患に関することを行う^{1) 2)}。中でも患者教育を重視している。看護師教育は、以前は養成所であったが、現在は大学で行われている。

療養上の世話にあたる、食事、排泄、清潔などは、以前は看護助手という職種が行っていたが、現在は、准看護師が行っている。准看護師は、高等学校のケアコースを修了するか、看護助手をしていた人は成人学校で追加の単位をとると資格が認められる。また、高等学校を卒業後成人学校の養成コース(1年半)を修了すれば資格を取ることできる。1年程度の教育で資格を取得していた看護助手は、質の問題から廃止された。また、准看護師は、病院では、採血やバイタルサインの測定を行ったりするが、施設では、日常生活の援助が中心である。スウェーデンの看護の場としては、在宅や施設の方が多く、病院の方が特別だという。

3. イェーテボリ大学

イェーテボリ大学は、スカンジナビア半島一番の規模の総合大学である。1891年に設立され、現在は、10学部60以上の学科を持ち、学生数約5万人、教職員数5千人以上である。教育と研究の両方を重要と考え、両者の相互作用によって大学教育が発展すると考えている。そのため、国際的な研究活動や産業との連携に力を入れている。

シャルグレンスカ校（医学部）は1940年代にできた。医学、歯学、健康科学を中心に附属病院のある丘一带に教育研究施設がある。学生数は6190人、大学院生1070人、教職員1323人、そのうち教員は736人、教授250人、客員教授75人である。（2005年）



写真1 The Sahlgrenska Academy
画面左の丘の上にも研究施設などが
並んでいる。



写真2 看護学科から図書館に向かう途中
敷地内はかなりアップダウンが激しい。

看護学科では、教授は、主に研究と大学院生の研究指導を行い、それ以外の教員が講義や学生指導を行う。2006年の研究のキーワードは、人間・環境、教育・リーダーシップ、経験・コミュニケーションであり、ヒューマンケアに重点を置き、医師との共同研究を進めると言うものであった。

4. 看護師教育

イェーテボリ大学の看護コースは、病院の一般的な看護師あるいは、地域医療の看護師として働くことができるように教育を行う。スウェーデン語で教育が行われるが、英語しか理解できない者がクラスにいる場合は英語で授業が行われる。学生数は、春学期100人、秋学期100人が、3年間6学期の教育を受ける。卒業には120単位必要で、1単位40時間。（1時間は45分）このうち臨地実習の単位は、最低25単位である。

入学して2週目に、病院で実際に働く看護師に会いに行き話をすることを課している。それによって、早い時期に、本当に看護師になりたいのかを見極め、場合によっては、コースを変更する。講義は、解剖生理や主な疾患など医学的なことと、心理学、社会学などである。日本と特に違うと考えられるのが、薬学を重視していて、試験は100%できないと卒業できない。これは、薬に関するインシデントが問題となり、実施されているということである。また、選択によって更に深く薬学を学んだり、実習を多くしたりすることもできる。

学内での演習は、実際に医療現場で実施する技術を習得できるように少人数で行われ、実習中でも不安な点は確認し、自己学習できるように配慮している。



写真 3 実習室 (ナースステーション)
カルテなどが病棟同様に並んでいる。



写真 4 実習室 (輸血セット)



写真 5 実習室 (手術室)



写真 6 実習室 (基礎看護)
夏休みのためシーツを剥いである。

実習は2・4・6学期目に主に行われる。病院やナーシングホームなど実習先の看護師が実際の実習指導を行う。指導者の資格として、その病棟に1年以上勤務しており、修士の資格を持つこと。もしくは、実習指導に必要な単位を修得していること。附属病院での実習では、学生1人に対して指導者1人、実習中は、常に同じ指導者が指導を行う。以前は、大学の教員が病棟でも実習を行っていたが、実際にそこで働いている人からの指導の方が、効果的で効率がよいからとのことであった。学生には、大学教員の指導者もついていて、病棟の指導者とうまくいかない場合などの相談もできる。時々、3人でのミーティングを行い、評価は教員と指導者で行う。可あるいは不可で評価し、2回までは再履修可である。最近では落第する学生が増えてきたという。可、不可の2段階の評価方法は、ヨーロッパで現在進められているボローニャ改革の影響で、7段階に変更する予定である。

卒業研究は、10週間で、15編ほどの先行研究をまとめるという作業を行う。5学期の

実習中に卒業研究のテーマを見つけ、6 学期に仕上げる。研究指導は修士以上の教員が行い、卒業試験は博士号を持っている教員が行う。そして、看護学士の学位を取り、大学卒業を持って看護師としての登録を行う。日本の国家試験のような統一試験はなく、看護師の国家資格は終生免許である。

卒業時には、即戦力として病院で働ける看護実践能力が備わっているという。卒業後は、病院や地域の診療所の看護師、海外での就職、大学院への進学などの進路がある。

Ⅲ. 考察

日本の看護師は、卒業時にすぐには使えないと言う意識が、病院、教育側、学生自身にも浸透してきている。専門学校でも大学でも同様である。ところが、スウェーデンでは、大学教育自体が 3 年制であり、日本の大学よりも 1 年少ないにもかかわらず、「使える」、といわれている。これは、まず、実習方法の違いではないかと考える。新人看護師が、仕事を覚えていく過程と同様に、同じ実習場所で同じ看護師について 3 週間程度指導を受ければ、そこで、いつも行われているケアについては、学生でも実施できるようになると考える。現状では、日本では実習中に無資格であるという理由から採血などを実施できない上にプライバシーへの配慮から見学の機会も限られる技術も多い。実際にできなかったとしてもじっくり見学を重ねれば、卒業時の実践能力が上がるのではないか。また、修士あるいは指導者としての教育を受けた人が多数いる、ということも強みであろう。通常 3 交代勤務でありながら指導担当になると日勤のみとするなど附属病院とはいえ、看護師の役割の中に学生への教育が組み込まれている。日本では、病院管理上も看護師一人一人の意識の上でも教育にそこまで力を入れるのは残念ながら難しい。

早い時期に現場を見学させ、動機付けを行うこともそうだが、実習室も病院で実際にすべきことを身につけるという明確な目標にそってセッティングされており、無駄のなさを感じた。何もかも詰め込むのではなく、一般的なことを教育するというのは、3 年間と言う期間を考えると非常に重要である。助産師教育は、別のコースで行われており、産科の実習はない。小児科も小児科に行かなければ患児に対応することはないので行わない。あくまで一般的な外科とか内科の看護を学ぶということであった。病棟実習でも、行きたいところで実習をおこない、興味を持ったところをより深く学んでいけばよいとしている。この方針は、スウェーデンの他の大学でも同様のようである¹⁾。

イエーテボリ大学は、研究にかなり力を入れているものの、学部の学生に対しては、先行研究の文献検討をもって卒業研究としている。文献検討も研究のトレーニングにはなるが、自分自身で計画を立て実施し、結果を分析し、考察していく過程を経るのは少し違う。このあたりは、やはり、時間の制約の中で導き出した方法なのであろう。

最も大きな違いは、国家試験がないことである。各大学が、卒業の認定を行っている。看護の質についてはよくわからないが、スウェーデンは、看護助手制度を廃止したことから分かるように、社会情勢に合わせて、制度の改革を行うことに躊躇はないようである。ならば、今後看護の質に問題が生じた場合は、すぐに問題解決に取り組むと考えられる。

スウェーデンの人々は個人個人が自立していて、社会制度を利用して一人で生きていくという姿勢があり、その中で看護教育は、医療処置以上に健康教育に力を入れようとしている。これは、自立を支える上で最も重要である。人に焦点を当て、医師らとも同等に研

究を進める風土がある大学の中で、学生は、たくさんのコースの中から自分が興味のある分野を見つけて進んでおり、その動機や目的を支えるようなプログラムが組み立てられていると考える。

IV. おわりに

イエーテボリ大学での研修では、看護教育が3年間の大学教育で行われ、国家試験がないと言うことに驚き、看護実習がマンツーマンで行われることにとてもうらやましさを感じた。学びたい学生を大切に、希望通り看護師にして送り出している。今の日本とは、実習方法が違うので卒業時の看護実践能力にも違いがあるのかもしれない。しかし、4年間かけても、自信を持って一人前の看護師ですと送り出せない日本の現状を実習場の問題にするのではなく、教育に責任を持つ立場にある自分自身の問題として考えていかなければならない。まず、看護のやりがいを実習中に少しでも学生に感じてもらうことで、看護への興味を持たせたい。そして、数年の経験後、どんどんのびていく看護師を育てたい。

謝辞

今回のスウェーデン研修において、スケジュールを組み、夏休み中にもかかわらずたくさんの先生方に引き合わせてくださった Bibi Kennergren 教授、お忙しい中お時間を割いてくださったイエーテボリ大学の永野教授他多くの先生方に深く感謝いたします。また、高知大学教育学部の是永助教授には、ずっと同行して頂き無事に研修を終えることができました。心より御礼を申し上げます。

引用・参考文献

- 1) 高橋聡美、濃沼信夫：スウェーデンにおける看護教育カリキュラムー日本との比較、看護展望、31 (9)、1066-1070、2006
- 2) 高橋聡美、濃沼信夫：スウェーデンにおける看護・介護システムー各職種の教育とその役割、看護展望、31 (8)、953-958、2006
- 3) <http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/sweden/data.html>
- 4) <http://www.caresci.gu.se>
- 5) <http://www.si.se>

(受理日 平成 18 年 12 月 21 日)